

関西業務ニュース

2013年8月12日 No.227

JR東海労働組合新幹線関西地方本部

発行 小林 國博 編集 業務部

〔大阪交番検査車両所における「作業方法改善」に関する申し入れ〕
について業務委員会を開催。

8月8日、「申」第41号〔大阪交番検査車両所における「作業方法改善」に関する申し入れ〕（2013年5月31日申し入れ）について業務委員会を開催しました。

《会社回答》

1. 従来パンタグラフを上げて加圧した状態で行っていた「側引戸検査」のほとんどをG編成・X編成ではパンタグラフを下げた後の無加圧状態で行うなど、加圧状態での「予備検査」時分を従来より大幅に短くしているが、これは電力消費を少なくするコスト削減が目的なのか、まずその考え方を明らかにすること。

【回答】側引戸検査も含め、より効率的な検査体制とすべく、手順や検査方法を変更したものである。

2. 無加圧状態で行う「側引戸検査」では、側引戸の「戸袋内確認」をロックシリンダーが突出していないドアの隙間が狭い状態で行うことになり、異物を発見しにくい。また、加圧後の「側引戸開閉テスト」で不具合発見後の、連絡・修繕の対応時間が短いなど、安全上問題がある。また今後、真夏など空調の効いていない車内で作業を行うことになり作業環境が劣悪になる。「側引戸検査」は従来通り加圧状態で行うこと。

【回答】現行通りとする。また、戸袋内確認は、側引戸を外側に押せば確認できると考えている。

3. 「側引戸検査」の検査方法・工程を見直したことにより、SEK社員が無加圧状態になるまでの間に行っていた作業が時間短縮の影響で相当に忙しくなっていると聞いている。会社として協力会社の作業方法まで責任を持つべきと考えるが、SEKにおける現状をどのように認識しているのか明らかにすること。

【回答】他社のことであるが、事前に関係会社と作業内容について調整を行ってから実施しており、問題はないと認識している。

4. 今年の5月に指定されたチェックシートによると、「ノルトロック」を使用して側カウル等のボルト締結を行った場合は、トルクレンチを使用して合いマークをするだけでボルトの打音検査は作業指定されていない。また「ノルトロック」を使用したボルトを叩くのは構造上よくないと聞いている。今後「ノルトロック」を使用した側カウル等の検査は「打音検査」から「目視検査」に改めること。

【回答】 現行通りとする。なお、打音検査についてなんら問題はない。

5. 「特交検指示書」に記載されている「機器検査」は300系編成以前の交番検査を施工していた頃の名残をそのまま放置しているもので意味がない。よってACM搭載号車の開けパターンの場合に「ACM検査」とするなど、表記方法を改めること。

【回答】 現行通りとする。

《若干のやり取り》

組合：大阪交番検査車両所では5月7日からN700Aの交番検査が始まっているが、作業と作業の間合いが長い。どこが効率的になったのか。

会社：予備検査が20分短くなった。

組合：かなり急いで作業しないとまわらない。何かあったら作業時間内に終わらない。書類の整理等のために詰所に戻る時間が以前より遅くなった。「効率的に」というなら詰所に帰る時間が早くなるはずでは。

会社：先頭車予備ブレーキなど一部検査項目が増えているものもある。どういった交番検査をしたら効率的になるのか見直しを行った。一から構築した。

組合：2項については、ドアを身体で押すという一作業増えている。ライトを持っていると作業がやりにくい。特に今の時期はパンタグラフが下がると車内が暑くなる。加圧状態で行うように戻してもらいたい。現場の感覚として効率的とはなっていない。以前の方が作業性も良かった。再度、全体を見直してもらいたい。

会社：そのような意見があったことは聞いておく。

組合：3項について、SEKの方は短くなった時間の中で庫の中を上から下に走り回っている。作業方法が変更になってからの現場の意見もふまえているのか。

会社：行程を作るうえで関係会社と調整して決めている。加圧中にできずに問題があるとは聞いていない。

組合：それは現場の、SEKの方の、努力の賜である。もう一度、現場の声を聞くこと。

組合：4項で、ノルトロック社のホームページ等では「打音検査」を推奨するような事は書かれていない。構造上必要ないと考える。

会社：打音検査しても問題ないと認識している。ノルトロックだから100%大丈夫、何もしなくても良いということはない。

組合：5項について、毎回、定例的に行っている検査項目は特交検ではないと考える。
開けパターンがほとんどない「機器検査」は、号車によって必要な「ACM検査」等
に変更、毎回行っている「先頭車予備ブレーキテスト」等は特交検指示書から項
目を外してもいいのではないか。

会社：要望は聞いておく。

以上